

# クリーンレイク諏訪 諏訪湖だより



第24号 (H29.1月発行)

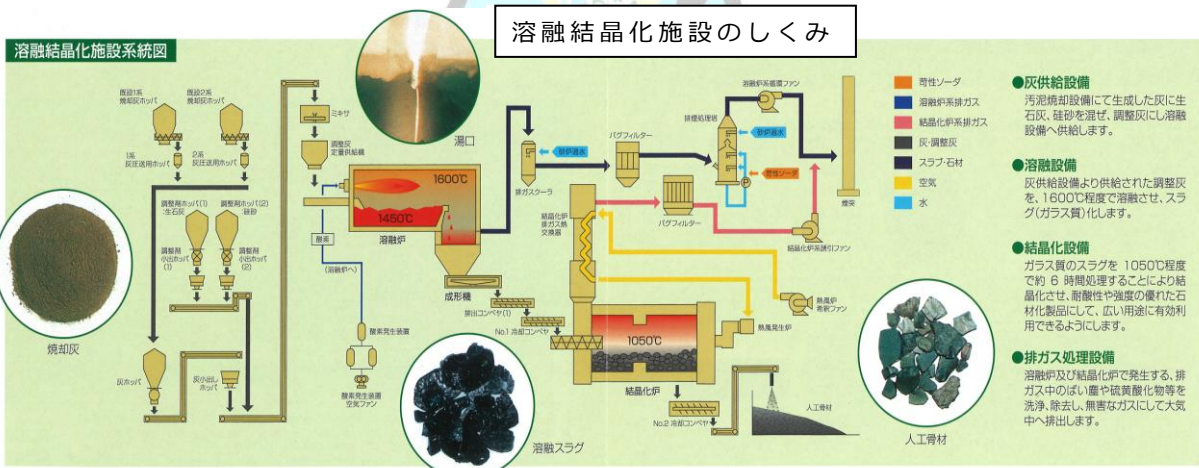
## 今月のトピックス

### 溶融結晶化施設の修繕を実施しました

下水を処理したあとに排出される汚泥を焼却して処理している下水処理場は多くありますが、諏訪湖流域下水道には、さらに焼却後に残る焼却灰を路盤材などに再生利用するため、「溶融結晶化施設」が設置されています。この施設では、焼却灰を1500~1600℃という高温で溶融した後、再び1050~1150℃に加熱して結晶化しています。さらさらした焼却灰は、硬い石のような石材になります。



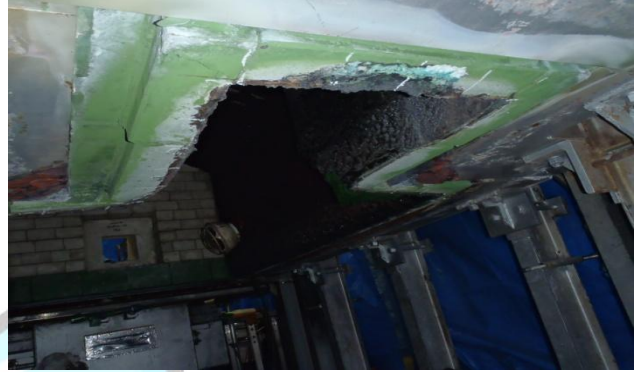
←焼却灰（左）は溶融結晶化施設で溶融結晶化石材（右）になります。



溶融結晶化施設は、高温になるため施設に使用されている部品の劣化が激しく、安定した処理を行うためには定期的な修繕が必要です。溶融結晶化施設は大きく「溶融炉」「結晶化炉」「酸素発生装置」の3つの装置で構成されていますが、11月から12月にかけて、それぞれの装置で劣化した部品の交換や調整を行いました。



修繕中の溶融炉内部。熱に強いれんが（耐火れんが）の交換中です。



耐火れんがの交換が終わりました。



交換部品の検品中。数が多いので大変です。



酸素発生装置の修繕の様子

修繕工事の期間中には、流域関連市町村や地元小川区の皆さんに、修繕工事の状況について見学していただきました。

